

2013年度企画

科学コミュニケーション活動の 評価を考える：報告

科学コミュニケーション研究会
高梨 直紘

開催の目的

「SC活動の評価」について、

- ・どんな考え方があるのかを知り、
- ・自分なりの観点を持つ

ためのきっかけとする事を目的としました。

(なにかの結論を出す事が目的ではありません)

プレ勉強会

- ・関東で3回、関西で1回開催
- ・本WSの参考になる論点出しが目的
- ・平時の科学コミュニケーション活動、
特に対話型イベントを想定して議論

評価の枠組み

- 誰が
- どんな目的で

- なにを
- いつ
- どのように

誰がどんな目的で評価するのが
決まれば、あとは自動的に定まる

誰が？

歴史

社会

SC活動

観察者

講師

協力者

主催者

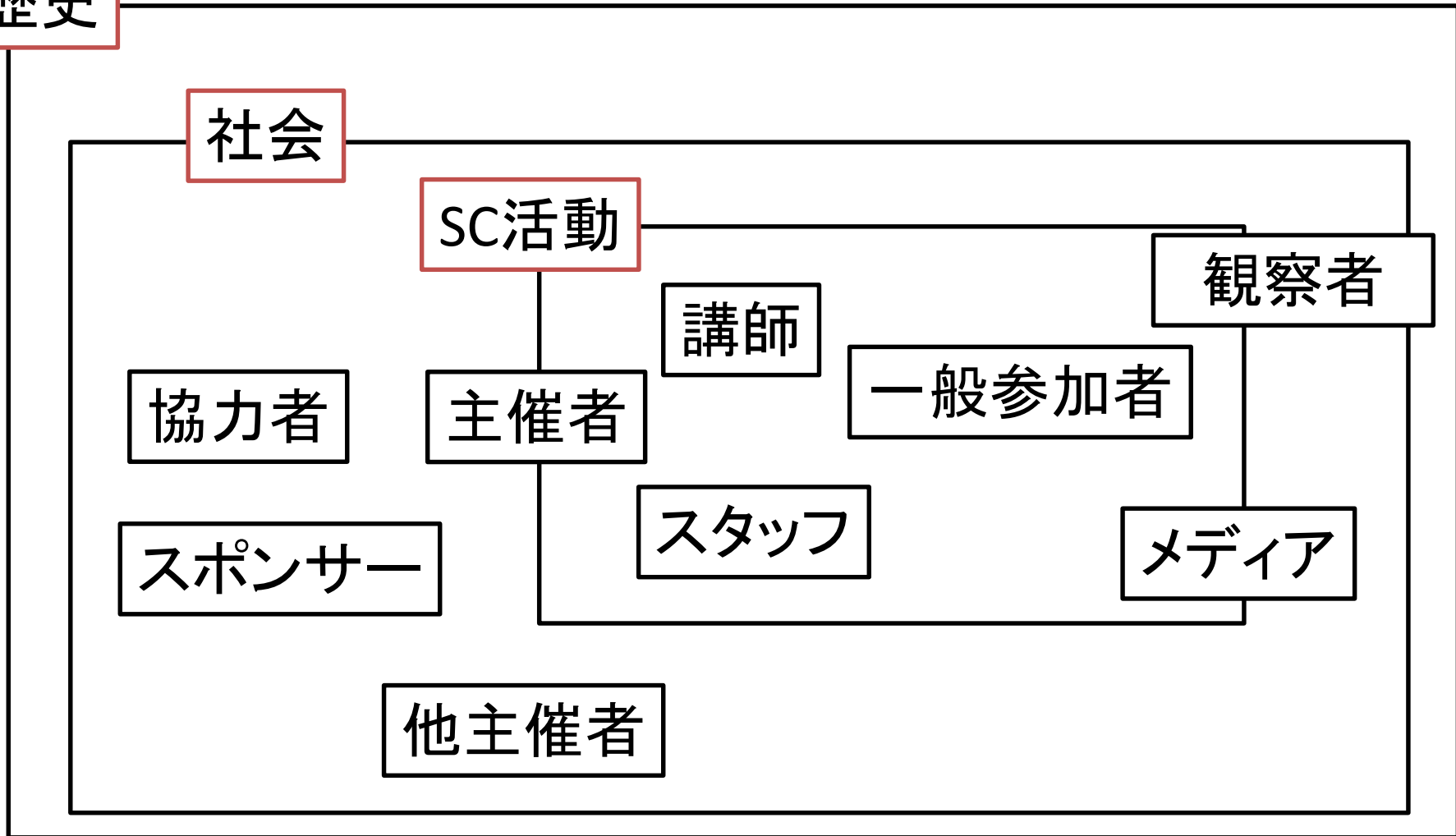
一般参加者

スポンサー

スタッフ

メディア

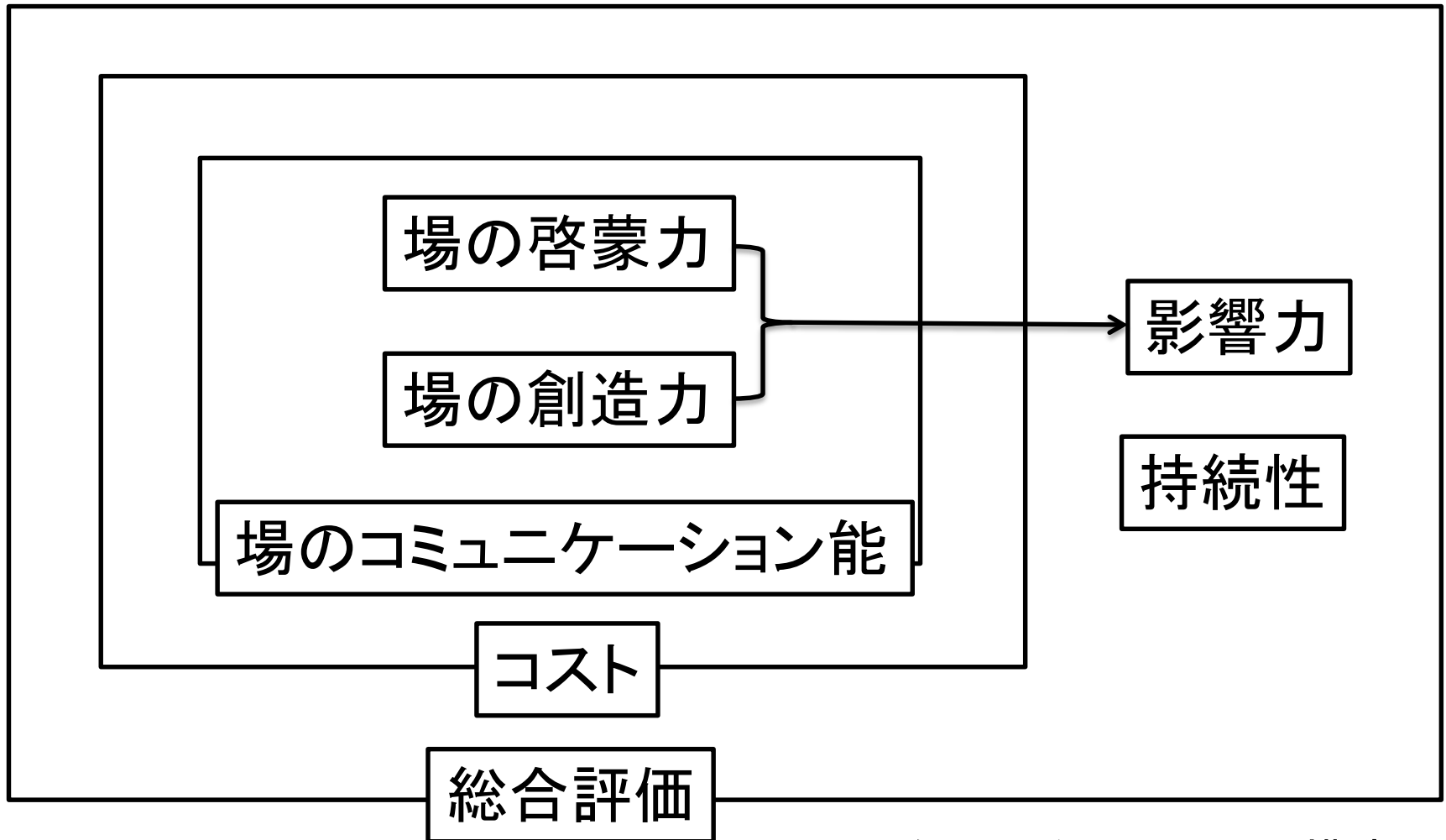
他主催者



どんな目的で？

- ・活動の振り返りと改善のため
- ・他のイベントとの比較のため
- ・支援先の活動内容のチェックのため
- ・スポンサーとしての投資判断のため
- ・次回も参加するかどうかの判断のため
- ・科学コミュニケーションの研究のため
- ...
- ...

なにを？



例) 対話型イベントの構造

どうやって？

- 項目の洗い出しとグルーピング
- 目的に応じた項目の適切な組み合わせ
- 限られた機会、資源での効果的な調査
- 想定できない効果をどう評価するか

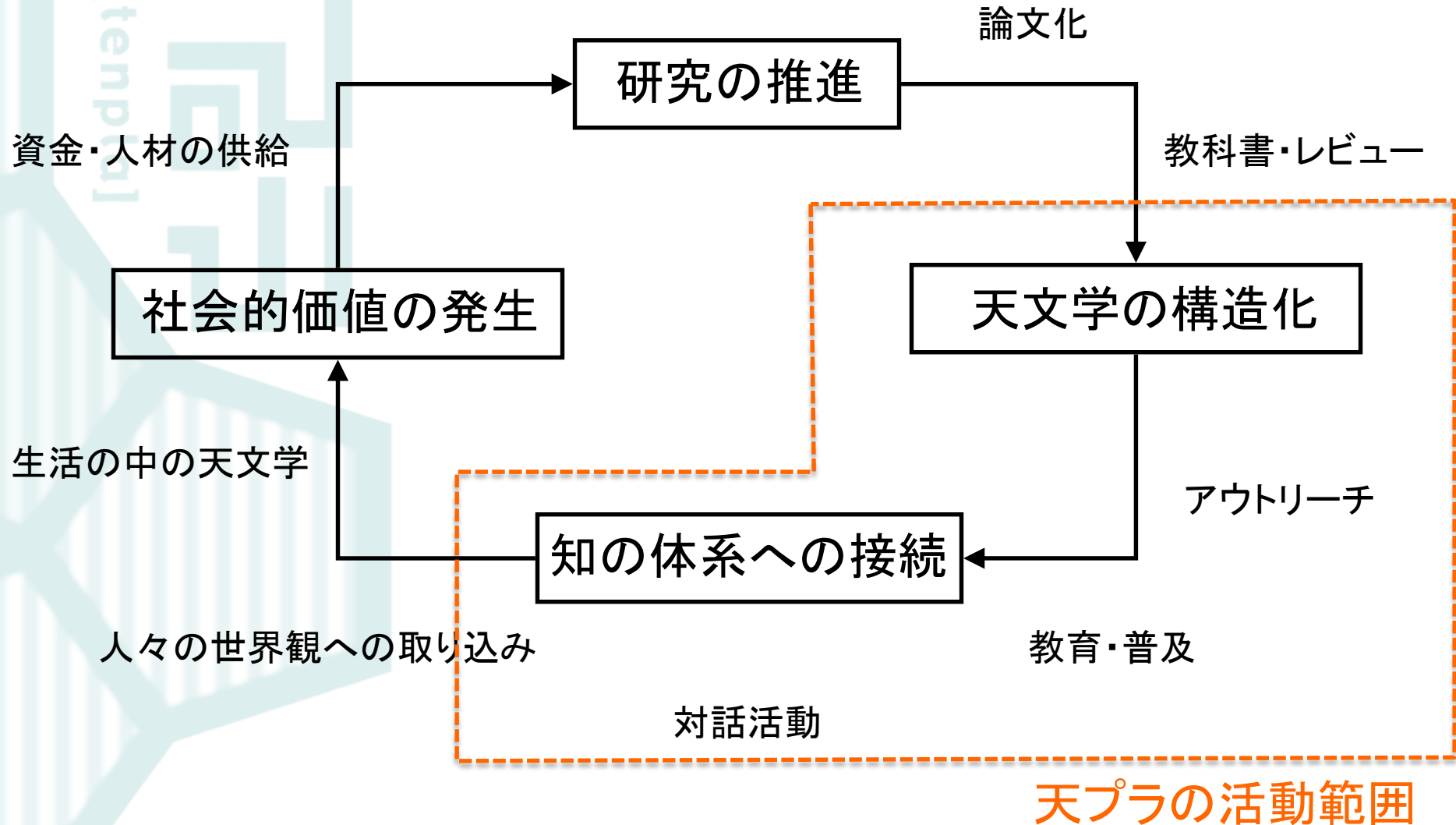
天プラのビジョン

(目標＋世界観)

天文学と社会のより良い関係を構築する

- 現代は天文学が急激に発展を遂げている特異な時代
- 同時に、社会の方も急激な変化を遂げている時代
- 社会にとって天文学とは、どんな意義を持つのか
- 天文学の価値を最大化する社会システムを構築する

知の循環モデル



天文学の構造化

「一家に1枚宇宙図2013」

高梨直紘、小阪淳、縣秀彦

天文月報 107(2), 115-120, 2014-02

「太陽系図2014 ～天文学を軸にした知の統合化～」

高梨直紘、小阪淳、片桐暁

天文教育 26(5), 38-43, 2014-09

→ いまのところ定性的評価のみ

知の体系への接続

「『知の循環』の文脈での対話型イベントの
実施事例の報告：まるのうち宇宙塾の取り組み」

高梨直紘, 天文教育 26(3), 2-16, 2014-05

「暮らしの中に宇宙を：六本木天文クラブの取り組み」

高梨直紘, 六本木天文クラブ運営チーム

天文教育 26(4), 4-17, 2014-07

→ 定性的評価＋(簡単な)定量的評価